



企業経営とスポーツ

2021年2月24日

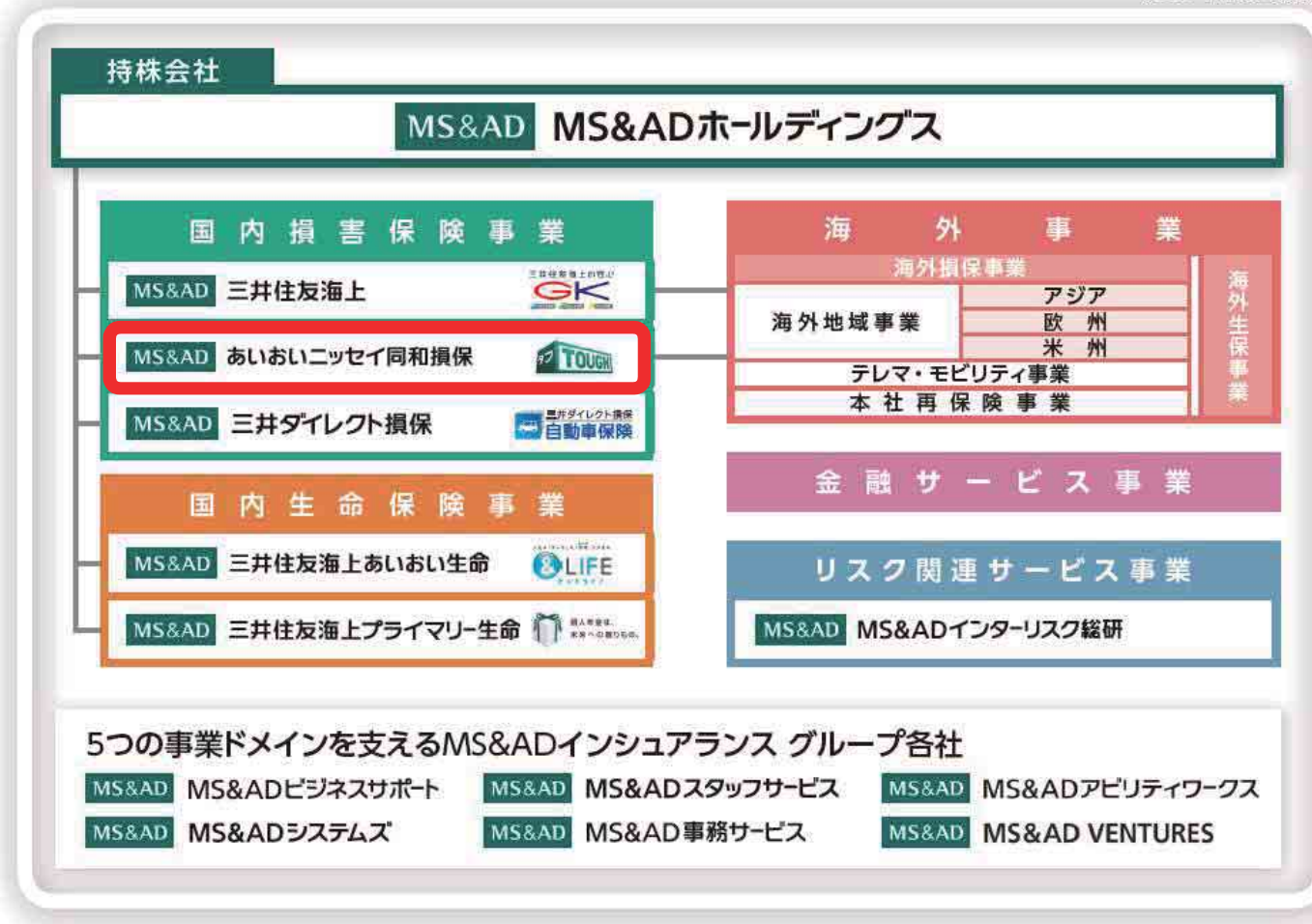
MS&AD あいおいニッセイ同和損害保険株式会社

代表取締役社長 金杉恭三

I .当社のビジネス概略

当社の概要①

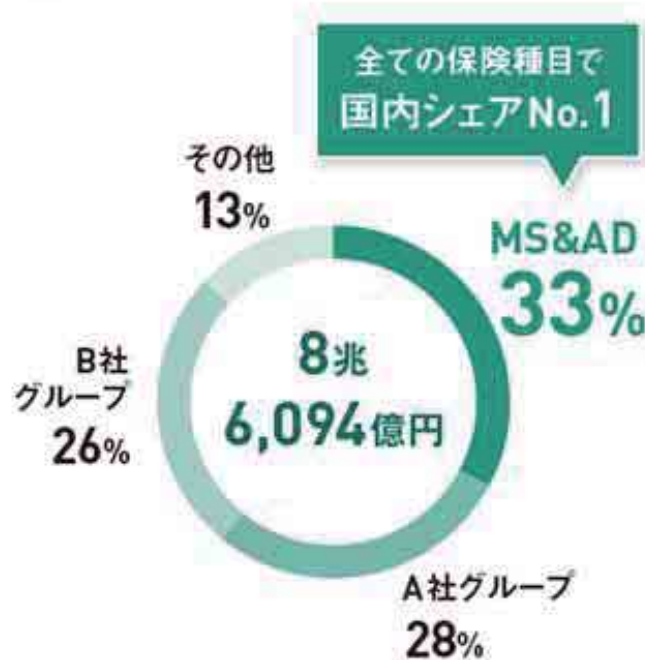
(2020年4月1日現在)



当社の概要②～MS&ADグループの国内損保事業におけるポジショニング～

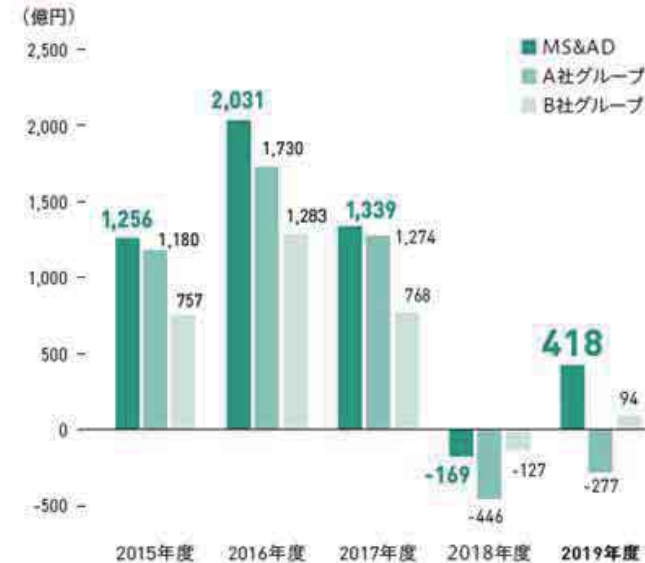


■正味収入保険料※シェア (2019年度)



(出所) 各社公表数値及び日本損害保険協会統計資料より当社調べ
 ※ MS&AD: 三井住友海上、あいおいニッセイ同和損保、三井ダイレクト損保、au損保の単純合算値
 ※ 各グループの国内保険会社の単体の単純合算値
 ※ 三井住友海上の独自商品である自動車保険「もどリッチ(満期積算型払戻金特約付契約)」の払戻充当保険料を控除したベース(以下同じ)

■保険引受利益(異常危険準備金損益反映前)*



(出所) 各社公表数値より当社調べ
 ※MS&ADは三井住友海上とあいおいニッセイ同和損保の単体の単純合算値、各グループのダイレクト系損保を除くグループの単体の単純合算値

<19年度当社実績>

正味収入保険料	1兆2,767億円(対前年+431億円)
当期純利益	447億円(対前年+74億円)
ソルベンシー・マージン比率	702.3%(対前年+14.1%)

当社を取り巻く環境

- **新型コロナウイルス感染症の蔓延**
～「新しい生活様式」への転換（With コロナ）～
- **経済環境の先行き不透明**
- **自動車の保有台数減少**
- **大規模自然災害の常態化**
- **低金利環境**

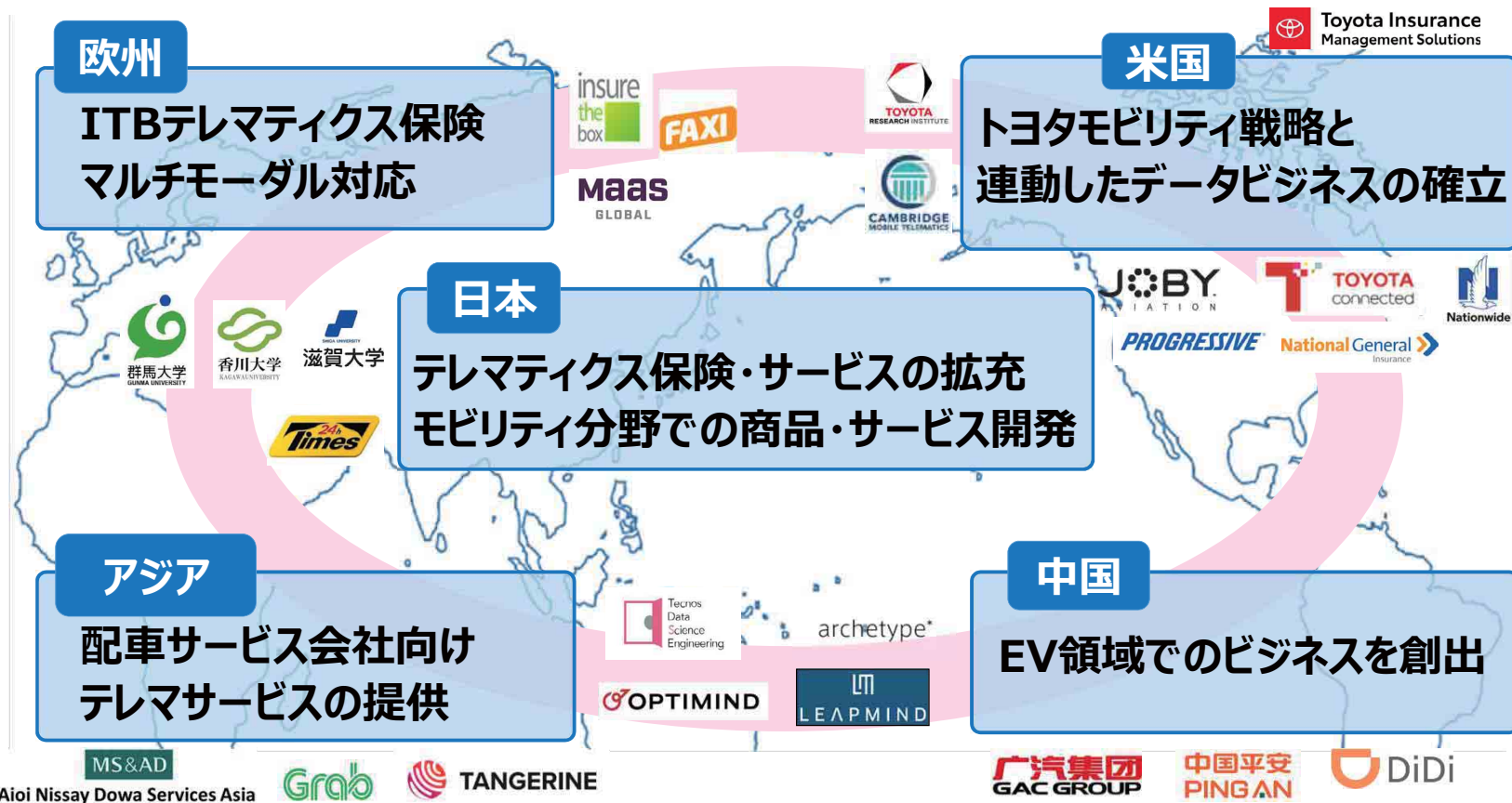
当社のビジネスモデル ～地域に密着した取り組み事例～

強みである『先進性』『多様性』『地域密着』の追求



当社のビジネスモデル ～テレマティクス・モビリティサービス～

- 日本・欧州・米国・アジア・中国の5極体制でテレマティクス事業を推進
- トヨタ自動車との提携関係を深化させるとともに、モビリティ分野での新事業を創出



Ⅱ.当社のスポーツ支援

障がい者スポーツを軸とした支援

- 2006年、日本車椅子バスケットボール連盟に協賛
- 2014年、日本障がい者スポーツ協会とパートナー契約締結
- 同年、社内にスポーツ担当セクションを組成

◆理念

「地域貢献に資する取り組みにより地域の発展に寄与する」とともに、
「障がい者スポーツを通じた共生社会の実現」を目指す

◆活動方針

全国各地での取り組みを着実に具現化し、一つひとつカタチにする

◆スローガン

「見て」「感じて」「考える」

スポーツ支援の特徴

➤ シンプルな取り組み、他に事例の少ない支援スタイル

アスリート雇用が、結果だけを求めず、地域貢献・人財育成に連動
(独自のスタイル=『スポーツメセナ+コーポレートスポーツの融合型』)

➤ スポーツを通じた共生社会の実現に資する取り組み

- (1) 大会応援
- (2) アスリート雇用
- (3) 地域における社会活動、教育支援
 - ・自治体との連携
 - ・大学との連携

【事例①】特徴的な取り組み

➤ 大会応援の活動

当社所属選手が出場する大会は、国内外問わず応援

全国の社員が参加 2019年度：22大会 延べ約2,200名



(世界陸上、世界パラ陸上：社内壮行会)



(水泳ジャパンパラ：会場での応援)

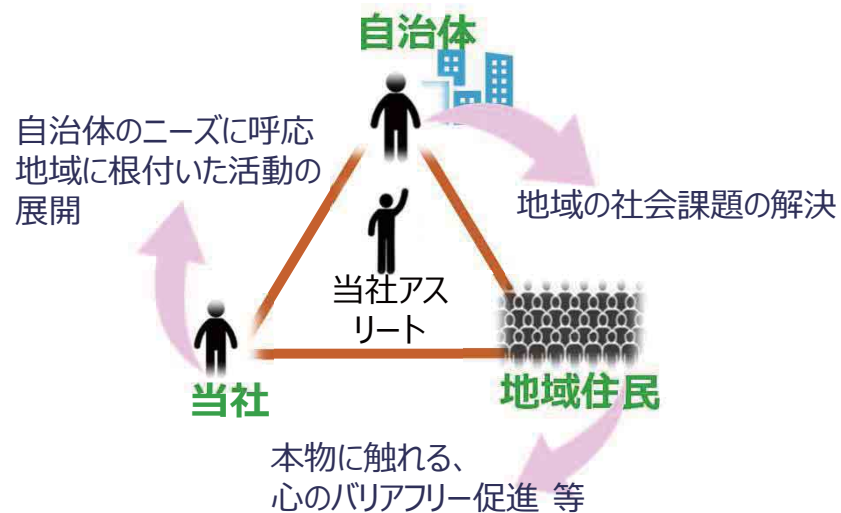
【事例③】特徴的な取り組み

➤ 地域との連携

* 自治体と連携した所属アスリートによる社会活動

講演会／体験会／小学校での出前授業など

* 地域貢献をCSVの取り組みにつなげる（＝地方創生に連動）



（当社と川内優輝選手との協働プロジェクト「マラソンキャラバン」）



【事例④】特徴的な取り組み

➤ 大学との連携 ～上智大学での事例～

「パラスポーツと共生社会」を学生教育に還元

- * 連携講座の設置
- * 体験会の開催
- * 講演会、シンポジウムの開催
- * 大会応援
- * 共同で研究所設立
(多文化共生社会研究所)

(連携講座：授業の様子)



(当社と共同で大会応援)



Ⅲ.当社におけるスポーツの位置づけ

経営とスポーツ

➤ SDGsへの貢献、持続可能性を追求

スポーツ領域に関連する主なSDGs目標



➤ 社員への動機づけ（=モチベーション向上への影響）

➤ 地域への貢献 ~CSV連動~

➤ 雇用による下支え（=大きなスポーツ支援）

健康経営への好循環

➤ スポーツを通じたチームビルディング（社員の意識変革）

◆パラスポーツ観戦：社員アンケートからみえること

	2014年・2015年 (17大会、1,444名)	2018年・2019年 (21大会、2,567名)
特徴的な 意見 上位5回答	1 選手の頑張っている姿に感動した 2 もっとたくさんの人に知ってほしい 3 想像以上に迫力があり面白い 4 もっと一体感を持った応援がしたい 5 応援だけでなくボランティアもしたい	1 当社の取組み、選手の活躍が誇らしい 2 選手の頑張りに自分を見つめ直した 3 選手の挨拶がうれしかった 4 社員一体の応援が良かった 5 迫力があり面白い、スポーツだと思う

➤ 地域貢献につながるCSV取り組みがマーケットからの評価に結実

➤ 数字に見える利益だけではない意義

社員の一体感醸成 → 日常業務におけるチームでの課題解決

ダイバーシティ&インクルージョン

→ 障がい者活躍推進、女性活躍、人権啓発

今後の展望

- アスリート支援、スポーツ支援により進展してきたこと

『特色ある個性豊かな会社』の確立、『個性豊かな社員』の育成

『「先進性」「多様性」「地域密着」』の追求

- 東京オリンピック・パラリンピックを会社を挙げて全力応援

- オリ・パラは大事。それ以降の取り組みも大事



- **スポーツ支援を通じた社会貢献は当社の特色であり、強み**

当社のレガシーとすべく、今後も粛々と継続

感謝

